

数理ウェーブ

平成28年3月26日(土) 13:30開場

名古屋大学 多元数理科学棟 509号室

14:00~15:00

久本智之 (名古屋大学大学院多元数理科学研究科 助教)

二次曲線から楕円曲線まで

数学の歴史上、二次曲線ほど長いあいだ調べられてきた図形はありません。古代ギリシャ人は既に、円錐の切り口に現れる図形として統一的にこれらの曲線を捉えていました。この講演では二次曲線の歴史について振り返り、そこから近代の数学がどのように生まれていったのか、少しお話できればと思います。

15:10~16:10

大沢健夫 (名古屋大学大学院多元数理科学研究科 教授)

補助線と複素数

図形の問題を解く時、うまい補助線を引いて合同な図形や相似形を見つけるということをします。線を引くことによって見えなかったものが見えるようになります。見えるものは平面図形ですが、それを立体の影と認識できる場合もあり、それが問題を解く鍵になることもあります。この種の幾何学を射影幾何といいます。射影幾何ではポンスレ(1788-1867)の閉形定理が有名ですが、この定理の証明は補助線を引くだけでは見えません。それは点や線の位置関係を高次元の空間内で記述する必要があるからです。そのために役立つのが複素数です。

参加無料・事前登録不要

—お問い合わせ—

名古屋大学研究協力部社会連携課

TEL 052-747-6484